

第2回 北上川水系(北上川上流)流域治水協議会

- 令和3年2月10日、北上川上流域(岩手県内)の関係機関による、第2回北上川水系(北上川上流)流域治水協議会を開催。
- 構成員として、農林水産省 北上土地改良調査管理事務所長、林野庁 盛岡森林管理署長、(国研)森林研究・整備機構森林整備センター東北北海道整備局長、岩手県農林水産部長が新たに参画し、関係機関における連携を強化。
- 協議会を構成するあらゆる関係機関が、流域治水対策に対し、全面的に協力・取り組んでいくことで合意。
- 令和3年3月末の流域治水プロジェクト策定を目指し、全体とりまとめイメージについて確認。

日 時: 令和3年2月10日(水)15:30~17:00

場 所: 岩手河川国道事務所 2F大会議室(Web併用)

出席者: 花巻市長、滝沢市長、雫石町長、紫波町長、矢巾町長

平泉町長、他流域市町関係者(5市2町)

農林水産省 北上土地改良調査管理事務所

林野庁 盛岡森林管理署

(国研) 森林研究・整備機構森林整備センター

岩手県農林水産部、岩手県国土整備部

北上川ダム統合管理事務所、岩手河川国道事務所

※下線: 第2回協議会より新規参画

約40名

○岩手河川国道事務所長 ひらい やすゆき 平井 康幸

- ・治水事業でできることは限定されており、守り切れない部分は、土地利用や被害軽減のための避難行動となり、様々な機関との協力で人命と財産を守ることが重要になる。
- ・北上川流域の関係者が一体となり、リスクを減らす方向に行動する事実がメッセージとして伝わっていく。関係機関の一体的な取組の協力をお願いしたい。



●協議会開催状況



※新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、WEB方式併用、マスク着用、消毒、換気を徹底して開催。

●協議会で出された意見等

- 北上土地改良調査管理事務所長 くりた とおる 栗田 徹
- ・農地、農業整備施設を活用した流域治水の推進ということは農水省としても、しっかり取り組んでいく。
 - ・田んぼダムの取組へも協力をお願いしたい。



○盛岡森林管理署長 みやざわ かずまさ 宮沢 一正

- ・森林の有する水源涵養機能、洪水緩和機能の適切な発揮、また流木や著しい土砂の流出に伴う河積阻害の抑制などの役割効果が特に期待されている。
- ・流域治水の推進に向け森林整備や治山対策についてしっかりと連携して取組を進めていきたい。



●協議会で出された意見等



うえだ とういち
花巻市長 上田 東一

- ・洪水の恐れがある場合には早めに避難勧告を出して、ルート確保し、逃げてもらうというソフト対策を考えている。
- ・市管理河川について、河川の整備や河道掘削を進めていきたい。
- ・関係機関一体となって取り組んでいきたい。



かつべ おさむ
一関市長 勝部 修

- ・構成員に森林関係部署の方々も加えていただくようお願いし、国や県から多くの部署や職員の方々が参画することになり感謝している。
- ・北上川上流改修期成同盟会の会長としては、一関遊水地北側の無堤区間の堤防整備など、今後も協力をしていきたい。



くまがい いずみ
紫波町長 熊谷 泉

- ・平成14年、19年、25年の水害があり、浸水対策の課題があるため運動公園と野球場のところに水を貯める事を検討している。
- ・町内の農業用のダムの事前放流等も考え、下流域に対して出来るだけ水の流れが遅くなるように努めていきたい。



しゅはま りょう
滝沢市長 主濱 了

- ・プロジェクトについて、しっかり事業を進めていきたい。
- ・規約の改定については農業、林業の多面的機能を最大限活用して治水への活用を図っていただきたい。



たかはし しょうぞう
矢巾町長 高橋 昌造

- ・矢巾町はまさに防災と医療の町なので、流域治水プロジェクトの取組は最優先課題である。
- ・農家の方々のご協力を頂きながら田んぼダムにも取り組んでいきたい。
- ・「氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策」は積極的に取り組んでいきたい。



さるこ しげひさ
雫石町長 猿子 恵久

- ・平成25年の大規模な洪水被害を踏まえ、防災対策を実施中である。
- ・北上川水系の流域治水プロジェクトについてもなるべく早くやっていきたいと思っている。
- ・国や県の力を借りながら、流域治水プロジェクトの取組を頑張っていきたい。



あおき ゆきお
平泉町長 青木 幸保

- ・準用河川、そして普通河川の浚渫事業、防災マップの改定、更新も行い、地域一体となって防災、減災に努めていきたい。